

## データベース入力作業ガイド

by 神無七郎

### 1. はじめに

本書はフェアリーデータベース入力作業向けに、入力作業手順と注意点を記述したものです。ただし、作業手順を順に示したのではなく、ある程度自分で作業手順を組み立てられる能力があることを前提に、必要なツール・情報の入手先、注意事項、ノウハウなどを記載しています。

### 2. 入力作業の流れ

以下に Kifuw で入力し、出力は fmo 形式で行うときの、おおまかな作業の流れを説明します。他にも入力方法はありますが、これが一番のお勧めです。

#### 2.1 事前準備

まずは入力作業に必要なツールを揃え、各種の設定を行わねばなりません。

##### (1) f m、kifuw2fm、fmview の入手と設定

データベースの入力作業は、基本的には入力が主であって、検討作業はメインではありません。しかし、f mに解かせることによって、手順を入力する手間を省いたり、図面の入力ミスを早期発見したりできる効果があるので、f m ( f m拡張セットを含む )、kifuw2fm、fmview は必ず揃えましょう。

##### a. 入手

Onsite Fairy Mate の「ダウンロード」のページ

( [http://www.abz.jp/~k\\_7ro/fm.shtml](http://www.abz.jp/~k_7ro/fm.shtml) )

注 1. 「f m拡張セット」も必要です。

注 2. Onsite Fairy Mate の掲示板に先行公開版が出ることがあります。

##### b. 設定

基本的に展開したファイルを全部同じフォルダに集めればOKです。

下手にしゃれた技(パスを通す等)を使おうとすると、大抵失敗します。

環境ファイル(FMENVとかKIFW2FM.ENV)もダウンロードしたものを、そのまま使う方が良いと思います。

## (2) Kifuw の入手と設定

最終的なデータ形式が fmo 形式ということで、最初から f m で直接入力すれば良いと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、こういう大量の入力作業を行う場合は、Kifuw で入力した方が効率的です。

入手は、柿木義一氏のホームページ (<http://www02.so-net.ne.jp/~kakinoki/>) から行ってください。設定は Onsite Fairy Mate の kifuw2fm のマニュアル ([http://www.abz.jp/~k\\_7ro/kifuw2fm/manual.htm](http://www.abz.jp/~k_7ro/kifuw2fm/manual.htm)) に従ってください。

Kifuw の設定について以下に補足します。

- kifuw2fm のマニュアルには Kifuw から f m を起動する設定が書かれていますが、同様に Kifuw から fmview も起動できるように設定しておきましょう。引数の設定は f m を起動する場合と同様です。
- Kifuw のルールチェック機能は外しておきましょう。  
[ツール]-[各種設定]-[動作]-[ルールチェック] のチェックボックスをオフにすればルールチェックが外れます。これで、かなりのルールに対応できるはずです。
- ルール名、作者名の一覧の準備  
ルール名、作者名の入力を楽しむために、神無太郎さんからルール名一覧、作者名一覧を入手し、Kifuw と同じフォルダにある「分類.txt」「作者.txt」に中味を追加してください。一覧のある場所は神無太郎さんに聞いてください。

## 2.2 入力作業

準備ができたなら、実際に入力作業を開始します。

### (1) 提出は月単位

入力データは月単位にまとめてテキストファイルで神無太郎さんに送ります。ファイル名の付け方は、tp+年月という形式です。例えば、1988年8月分のデータであれば「tp198808.txt」という名称になります。

筆者の場合は作品ごとに fmo 形式のファイルに保存し、次のコマンドで結合しています。

例) 1988年8月の場合  
copy \*.fmo tp198808.txt

(2) 入力項目

Kifuw で入力する場合は、図面の他に「詰将棋情報」の入力が必要です。

データベース用には「作者」「発表誌」「発表年月」「完全性」の4つが必須入力項目で、更に問題の一部として「手数」「分類」(「分類」はルール名として使用)の入力が必要です。

また、「作品名」「受賞」の項目も必要に応じて入れてください。この2つの入力項目は fmo 形式にした場合は、ある程度編集が必要です。

(3) データ形式は fmo 形式で

神無太郎さんへのデータの提出は、kif 形式でも fmo 形式でも良いのですが、最終的にはデータは fmo 形式に変換しないとイケないので、神無太郎さんの負担を減らすためにも、なるべく fmo 形式で提出しましょう。

データベース用の情報は、コメント行に反映させますが、最初の4項目は固定で、「作者 / 発表誌 / 発表年月 / 完全性」となります。他の項目を付け加える場合は、この4項目の後に / で区切って、「項目名 : 内容」の形式で付け加えます。

例)

小林看空 / 詰将棋パラダイス / 1988年3月 / 完全 / 備考 : 17手目非限定

kifuw2fm は「詰将棋情報」を自動的にコメントに編集してくれますが、「備考」欄は f m に与えるオプションのために使うので、上記の「備考 : 17手目非限定」は手入力する必要があります。また「詰将棋情報」に「作品名」を入力した場合、コメント行の先頭に来てしまうので、これも、手作業で編集する必要があります。

(4) kif 形式から fmo 形式への変換

kif 形式のファイルは fmview で読むことができ、fmview はそれを fmo 形式で保存することができます。たいていの場合は、kif 形式から fmo 形式への変換はあまり意識することなく行えます。ただし、特殊な問題で Kifuw でも fmview でも扱えない場合はある程度泥臭い作業をすることを覚悟せねばなりません。

以下にいくつかのケースに分けて説明します。

a. f m で解ける作品の場合

f m で解ける作品の場合は、解を手入力する必要はありません。 Kifuw で問

2006年2月17日

題を入力すれば、kifuw2fm が f m、fmview への連携を 自動的に行ってくれます。従って、基本的な手順は以下のようになります。

Kifuw で問題を入力し、kif 形式で保存する  
f mを起動する  
fmview が起動される（解析が正常に終わった場合）  
fmo 形式で保存し、fmview を閉じる  
保存したファイルに編集の必要があれば、メモ帳等で編集する

では kif 形式での保存を忘れないようにしましょう。保存前に f mを起動しても無効です。特に、図面を変更した場合、保存を忘れ易いので注意してください。

で fmview が起動されたときには、図面を右クリックして、情報（特に検出解数）を確認してください。余詰がある場合は のところで、[ファイル]-[作品全体を保存]を選んで、余詰順も含めて保存してください。

なお、検出解数が/L オプションで与える上限（無指定の場合は 10）に達した場合、fmview の起動の前に、f mの解析を続行するかどうかを聞いてきます。ここは作業者の判断で続行か打ち切りかを決めてください。

はコメント部の編集が主要な作業です。「作品名」「受賞」「備考」など、kifuw2fm が自動で編集してくれない部分を手作業で追加します。

なお、で fmview を閉じないと、次の問題を解析して再び fmview を起動するときエラーになります。これもうっかりしやすいところです。

#### b. f mで解けない、または不完全等で手入力が必要

f mで解けない、あるいは解けるかもしれないが時間が掛かるなどの場合、手順は Kifuw で入力します。不完全作は、かならずしも作意順を入力する必要はありませんが、できれば入れておいた方が良いでしょう。この場合は、Kifuw で手順も含めて入力し、fmview で fmo 形式に変換してください。この時の手順の流れは、f m起動の代わりに fmview を起動するだけで、a.で示した手順と同様です。

Kifuw で問題と手順を入力し、kif 形式で保存する  
fmview を起動する  
fmo 形式で保存し、fmview を閉じる  
保存したファイルに編集の必要があれば、メモ帳等で編集する

Kifuw の手順入力の場合は「詰み」で締めましょう。最後に変な文言を挿入すると、fmview で手順を読めない場合があります。

c. f mで解けず、手順の入力もできない

変則的で Kifuw で入力不可能とか、f mで解けそうにない問題でも通常の盤駒やf mで取り扱える駒を使用しているものはfmo形式で図面の保存が可能です。オプションに/L0を指定してf mに解かせると、f mは解析を行わず、図面のみ出力します。この場合、手順は手作業で入力することになります。(作意不明の場合は図面のみで終わり。)

f mで取り扱っていないルールでも、f mで扱っているルール名で/L0で出力し、後からルール名を直すというテクニックがあります。繰り返し手順の出てくる長手数作品は、kif形式より、fmo形式の方が手順を入力し易いので、Kifuw でちまちま駒を動かすより早く入力できます。また、fmview はf mで扱えない変なルールでも結構動いてくれるので、手入力した後はfmview で動かして確認してみてください。

d. 図面の入力さえできない

変則的な盤駒で図面の入力さえできない場合は、個別に神無太郎さんに相談してください。

(5) フェアリーランド以外にもフェアリーはある

入力作業者が注意すべき点は、フェアリーランド以外にもフェアリーが載っていることがあることです。1980年代の例では「ばか詰源泉館」や「フェアリー別館」といったフェアリーの企画がありましたし、「賀状往来」「読者サロン」といったコーナー、ちょっとしたコラムにフェアリーが掲載されることもありました。詰バラはフェアリーランドだけでなく、一通り目を通すようにしましょう。

(6) 不完全作の扱い

不完全作の概念は時代とともに変化します。むかしは多少の非限定があっても完全作として扱われていたことが多いので、余詰なのか非限定なのか判断に迷うときがあります。

筆者の場合、作者が想定していない詰め方があった場合には、「余詰」とし、想定範囲内と思われる場合には、当時の判断をそのまま「完全性」の欄に記入し「備考」「コメント」として非限定の内容を書くようにしています。

(7) ルール名は気にしない

フェアリーでは名称が変更になったり、複数の名称が使われたりしているものがたくさんあります。特に現在良く使われている名称と、当時の名称が違う場合、どちらを使うか迷います。

こんなときは「f mで使える名称はそれを使おう」と割り切ってしまうでしょう。なぜならf mで解かせれば、手順の入力作業を省略できるからです。f mで取り扱えないルールの場合、手順は手入力になるので、これは出題時の名称に従った方が良いでしょう。

(8) 注意点とテクニック

その他、入力作業を行っていく上での注意点や、有用だと思われるテクニックについて記述します。

a. 非限定の中に潜む余詰

非限定のある作品は、早詰が見つからなければOKとして検討作業を打ち切りがちですが、時々非限定の山に紛れて本当の余詰がある場合があります。筆者の経験だと、1988年8月の上田氏作(打歩角王ばか詰 13歩 23歩 33歩 43歩 53歩 63歩 73歩 83歩 93歩 +歩, 51玉 54歩 #33)を検討したときに、8解目まで非限定、9解目に本当の余詰が見つかった例がありました。

こうした非限定の中に埋もれた余詰を完全に防ぐには、解を全部調査するのが最も確実な方法ですが、非限定が多すぎるときは、これは実行不可能です。

ただ、ある程度そうした見落としを防ぐ手段はあります。非限定の存在箇所が分かり易く、掛け算で解の数が予測できる場合は、解を出力せず検出解数のみチェックすることで、想定外の詰みの存在を推定することができます。例えば、  
/L2:\*,P,S

とオプション指定すれば、出力は最初の2解のみで、解析を終えるか、駒余り解か早詰解を検出するまで解析を続行します。これで予測通りの解数になるか確かめるのです。

ただし、データベース入力作業は検討が主目的ではないので、検討に凝るのは趣味の範囲に留めましょう(自戒も込めて)。

b. 「完全打歩」と「単純打歩」、「利き二歩有効」と「利き二歩無効」

フェアリーではルールの解釈が変わることが時々あります。「すかし詰」を有効にするかどうかというのは有名な例ですが、打歩ルールに関しては、その解釈が表沙汰にならず、その時々で解釈がぶれているため、余計にタッチが悪いのです。

2006年2月17日

例えば、1988年6月の上田氏作（打歩ばか自殺詰 41角 53玉 +角, 32歩 51玉 71桂 #22）は当時20手の早詰を指摘されていましたが、もし「打歩」の解釈が「完全打歩」であれば16手の早詰が存在するのです。後年、フェアリーランドは「完全打歩」をデフォルト解釈とするように決定しましたが、むかしの作では違いが曖昧なままなので、双玉の打歩ルール作品を検討するときは注意してください。一応、現在のf mのデフォルト解釈は「完全打歩」になっているので、変な手順が出てこない限り「単純打歩」で解析する必要はありません（「完全打歩」の方が「単純打歩」より詰みやすいため）が、一応頭に入れておいた方が良いでしょう。

「利き二歩有効」と「利き二歩無効」も同様の問題がありますが、どちらかがどちらかより詰みやすいとか、そういう性質はないので、検討の際は「打歩」より注意が必要です。「安南」「対面」といった性能変化系のルールは両方の設定で検討することが望ましいと言えます。

#### c. 歩18枚を持駒にするとき

Kifuw を使う人の間でも意外と知られていない機能なのでここに書いておきましょう。Kifuw では同じ種類の駒を駒台から駒台へ一度に移動させることができます。通常の駒台間の移動操作を、Ctrl キーを押しながら行うのです。これは金4枚とか飛2枚とかでも同じなので、詰将棋の編集の時には大変便利です。

#### d. 長いリストからの選択

2.1(2)に従って作者名一覧とルール名一覧を取り込んだものの、リストが長すぎて、選ぶのに手間が掛かるという人は、次の技を覚えてください。

##### 選みたい文字列の頭何文字かを入れてから、リストを表示させる

こうすると、その文字からのリストを表示してくれるので、選択はすぐに終わります。特に人名などは姓はともかく、名を入れるのに手間取ることが多いので、リストからの選択は大変便利です。ただし Kifuw の場合は用意したリストだけではなく、最近の入力履歴も10件まで覚えるので、こちらが先にヒットする場合があります。人名はともかく、ルール名などの場合は履歴数を少し減らす設定にした方が、却って便利かもしれません。

### 3. 問題点が生じたら

とにかく、神無太郎さんに相談しましょう！ みんなで共有したほうが良いと思われる情報は掲示板で、単発の質問はメールでしましょうね。

以上